



2014年3月15日

報道機関 各位

バイアスロン女子 12.5km (立位) 抗議棄却に対する IPC NORDIC SKIING への上訴について

すでにご承知の通り、ノルディック日本代表チーム（監督：荒井秀樹）は、2014年3月14日に開催されたバイアスロン女子 12.5km (立位) における競技役員判断に対して不服申し立てを行いました。棄却され競技成立が発表されました。

この結果に対し、日本代表選手団（団長：荒木雅信）は、本日、IPC NORDIC SKIING の上訴委員会 (BOARD OF APPEAL) に対し、下記の通り上訴を行いましたのでお知らせいたします。

記

上訴内容

我々日本選手団としては、当該レースにおいては公平に計測されている 10km 地点でのタイムによるリザルトを公式のものとする事を主張する。そうでなければ、我々は結果を無効とする事を主張する。

状況説明

ビブ No127. 出来島桃子（日本）が出場しました。スタートして、約 500m 地点で男女コースの分岐がありました。ブイボードは男子コースに誘導されておりましたが、出来島桃子以外にも 2、3名の選手は正しい女子コース 2.5km の周回を選択しました。

2周目以降は競技役員が間違いに気付き、全員が女子コースを走りました。

しかしながら、5周目において、同じく正しい女子コースを滑走しようとした出来島桃子に対して JURY に遮られ、他の選手が誤って滑走した男子コースに行くように命じられました。そのため、1位だった出来島桃子は誤った男子コースを走らされ、結果は7位となりました。女子コースを滑走していた出来島桃子を、最後の周回で男子コースに誘導した判断は間違っており、その間違った判断により1位だった出来島桃子が7位に落ちる不利益を被ったため、その指示をした JURY に強く抗議します。



上訴の根拠

1. TCM によって発表されたコースマップおよび公式掲示板に貼り出されているコースマップに則ってレースに臨んだ
2. 出来島桃子の1周目の周回時、女子2.5kmコースとしては正しく連続してマークされたコースとはなっていなかった。“正しく”連続してマークされていればそれに従ったが、そうではなかったため、あくまで、正式に発表されたコースマップに従って正しく滑走した
3. そもそも今回の出来島桃子の不利益は、競技前のTDの任務であるコースの準備状況を自分自身でチェックして判断する、ないしは他のジュリーメンバーに代行させることを怠ったことにより起因しており、出来島桃子には何ら瑕疵は無い
4. 1周目で出来島桃子以外にも正しい女子コースを周回している選手がいたが、出来島桃子以外の選手は競技役員によって誤った男子コースに即座に誘導された。しかしながら、出来島桃子のみ、最終周（5周目）で男子コースに誘導されるのは明らかに不公平である
5. レースは12.5キロと告知されていたが、公式の結果では13キロのレースとなっており、規則で定められた距離で公平に争われなかった

<参考>

IPCの規定により、IPCの上訴委員会は、上訴を受理後72時間以内に回答をしなければならないことになっています。